

## ○令和5年度第1回遠野市部活動検討委員会議事録

### (2) 意見交換（各委員からの意見）

#### 2 遠野市中学校体育連盟 会長 堀村 克利 委員

今年度から中体連に地域スポーツクラブの加入が始まって、資料で出されている所が登録されている地域スポーツクラブである。実際はクラブ全てが大会に出場したわけではないというところを確認していただきたい。

具体的にどこのクラブとは言えないが、例えば盛岡市の剣道のクラブは、学校でそれぞれが参加できるので、団体登録はしたけれども地域クラブでは参加していないという状況もある。

なお、今年度、中体連のホームページにも掲載されていますが、来年度のことは、9月初旬から10月までに申請ということにしておりましたが、全日本中体連の方針が決まらないのため、いつまでに登録するかという期限が決められていないところが現状としてある。

資料No.1の7ページの部活動の状況の箇所ですが、それぞれの種目の部員数は1年生から3年生の部員数で掲載されているので、新人戦になると合同チームができて、また1年生が入ってくると合同チームが解消されるというのがこれまでの流れで、全県的にもそのような現象が見受けられる。

生徒数が一番多い本校の状況をお話すると、部活動の整理を始めまして、例えばバドミントンの男子や卓球の女子の募集停止であったり、合唱部は今年度を終わりにするという部分を決めたり、学校の中での整理は少しずつ進んでいる。

地域移行という部分だけではなく、部として成り立たない状況がある。

芸術部の部員数の36人が目立っているという状況にあるが、運動が苦手な子どもたちが入部してくる受け皿として活動している。

今後の児童生徒数の推移が示されておりますが、小学校3年生の所で極端に減少傾向が見受けられるので、そこまでに何かしらの方策を検討していく必要があると思われる。また、中体連の状況がどのような方向性に向かっていくかが不透明ということもあり、同時に中体連の状況も見極めながら、検討していくことも必要であると思っている。

県内の情勢をお話ししますと、ホッケーの有名な町では合同チームにして、活動時間や活動経費等の部分で課題等がやや見受けられていると聞いたことがある。中総体県大会のサッカー競技に宮古市クラブチームが代表として出場してきたが、市内の各中学校の実力のある生徒により編成したチームであったことから、非常に強いチームであった。その反面、各中学校のサッカーは少人数になって成り立たないという部分も見受けられたと聞いているので、地域移行には段階的な部分の検討も必要であると思っている。

なお、今年度、新人戦にはクラブチームは参加できなかったという状況であった。

#### 2 遠野地区中学校文化連盟 会長 菊池 一洋 委員

それでは中文連としての考え方と本校、西中の現状等も絡めながらお話させていただく。

まず、地域移行を進めるということについては、学校としても、中文連としても大変、望ましいことだと思っているところである。

地域移行が進むと一つは多様な体験活動に加え、やっぱりレベルの高い、特に文化面や芸術面においては、校内での指導で完結するよりは、もう少しさらに範囲を広げて、様々な種目であったり、多様な体験ができることが大きいと思う。

学校のこのことを考えると働き方改革のところで、本当に今きつい状況になっており、生徒数の減少ということが言われている。生徒数が近年大幅に減少のスピードが上がっており、毎年学級が減になっている。学級が減になると職員定数がどんどん削られ、もはや新設した当時の10年前の部活動を維持するということは、はっきり言って学校の中では不可能という状況になっている。

やはり地域移行や部活動指導員の配置を考えていかないと、成り立たないという状況がある。そこで懸念されるのが、地域移行を進めたとしても、生徒数は増えないということが考えられる。

遠野市全体をエリアと想定する部と、中学校区を想定する部を分けて地域移行と考えないといけないと感じる。

例えば地域移行を進めても、うちの学区の中では既に少人数になっていることから、少人数の部活動をただ移行するだけということになって、大会に参加するとかレベルの高いものを目指すとかという部分では、弱いという状況がある。繰り返しながら、市全体を移行のエリアとして想定する部と、中学校区を想定する部、つまり十分子供がいる部活と分けて、今後進めていく必要があるのではないかなということを考える。

そのためにも、ご説明にもあったとおりコーディネーターさんを配置するという事は、その辺りの調整についても、恐らくこれから進むのかなということを考えていた。

それから、先ほどのご説明の中に部の精選を進めるという説明があった。確かに校内体制だけとして構築するであれば、部を精選するという考え方は当然取っていく必要があると思いますが、多様な体験活動という話になると、やっぱり精選することは、減らすということになるので、ちょっとその辺は矛盾するのかなと感じる。

もし、本校の現状で精選するとなると本校の生徒数は現在 99 人、そして来年は 89 人と、あと 3 年たつと 70 人規模の学校となる。そうすると 3 つのクラブはもう減らさないと成り立たない状況となる。

現在、吹奏楽部も 2 人です。現在、私は、中学校文化連盟の会長ですが、恐らく精選を進めると吹奏楽部は廃部です。これでは文化面をやりたい子がいるのに、西中には文化面の部活動が無くなってしまおうという悩ましい所がある。

西中は生徒の減少傾向が遠野中や遠野東中よりも激しい状況で、思い通りの部活動が出来ないというイメージになってしまうと、遠野中に近い小友地区の子どもたちは、遠野中に行きたいとかという話になると本校としても、是非、西中でがんばってほしいなという思いもあるし、その辺りも絡んでくる状況もあるので、種目別に考えるということも必要だと思うが、市の単位、そして中学校区の単位というように考える部分も必要かなと考えるところである。

### 3 遠野市校長会 代表 佐々木 誠 委員

校長会を代表としてというよりは、今までの経験或いは今年の会議を踏まえていろいろ考えたことをお話しさせていただく。今回も様々なことが提案される中で、なかなかゴールを示すというのが難しい状況ではあると思うのですが、最終的にどういう形になるのかというイメージが今、正直全く湧いていない状態である。

国が示す完全に中学校から部活動を離して、子供たちの運動、文化に関わる活動は地域が請け負うという形、果たしてそこがゴールでいけるのかという所なんです、ある程度ゴールが決まってそこに向けて段階的に進めていかないと、何となくあれもこれもやってみて、どうなのかなということにしかならないのかなと感じたところである。

資料No.3の活動指導員の配置ですが、令和6年度には部活動指導員の配置が増える見込みであるということなんです、実際、部活動指導員を担ってくれる人材がどれだけいるのかっていうのがなかなか学校では把握できない。そこが一つ課題なのかなと捉えている。

例えば、東中学校では今年度、1名の配置となっていますが、実際にはもう1名の枠がある中で、人材を見つけられないという状況がある。このような状況の中で配置数を増やすと言われても学校独自で人材を見つけるというのは非常に厳しいと感じている。

例えば、岩手県はスポーツ公認指導者という有資格をリストアップして、その中から希望する方に声をかけるというシステムを出来ており、市でもそういったシステムがあれば助かるのかなと思う。

資料No.3の3ページの箇所、令和6年度に部活動指導員の配置による教職員の負担軽減とありますが、実際、部活動指導員が中学校の部活動の時間帯に指導に来ていただけるのかということも課題だと思われる。

日中の仕事があって学校の部活動の時間帯に指導に行くのは難しいと想定される。ただし、部活動が終わった後、夜間練習という形で実施するとなったときに、部活動指導員に単独でお任せする

ことはできないので、結局、教員も立ち会う必要が生じるということになれば、教職員の負担軽減にはならないなど考えられる。

今の段階では、学校とは全く切り離せない状況なので、教員も部活動の指導にあたる必要があるというところで、その辺が一つ課題なのかなと思われる。

それから、部活動数の設置に係る検討ということで、本校も野球部1・2年生が3名、女子バレーボール部が3名ということで、今回の新人戦は、遠野中と遠野西中とそれぞれ合同チームを組み出場したところですが、最初にお話したゴールが見えない中で、部活動数を減らすべきなのか、少人数でも存続させていき、地域移行にそのままスライドさせるべきなのか、そこは判断に迷う所である。

複数校による合同部活動の取組体制の検討についてですが、今回、新人戦に向けて合同チームを組ませていただいたんですが、交通手段が非常に課題だと感じている。遠野西中とはバレーボールを組みましたが、平日には合同練習は当然出来ないということで、休日に保護者の送迎による合同練習等となった。野球部は遠野中と組んだので、平日にも可能な限り合同練習を実施したいというところでしたが、実際には交通手段がなく、保護者送迎や教員送迎も難しいということで、最終的に3名の生徒は、自転車で遠野中まで通い活動を行った。

これを長く続けるとなると到底難しいという状況がありましたので、合同部活動については交通手段をどうするかという所が一つ大きな課題だと捉えている。

## 5 遠野市体育協会 会長 熊谷 義弘 委員（欠席）

## 6 遠野市芸術文化協会 会長 新田 光志 委員

私は芸術文化協会という文化芸術の分野なので、この検討委員会の中では、地域移行の受け皿としての立場と認識している。

どこまでの活動であるかと考えた時に、資料を見ると休日の学校部活動という部分での私の疑問を述べたいと思うが、郷土芸能は、残念ながら私の分野では無いので、そちらの方は除外した形でお話しさせていただく。

まず芸術分野と一言と言っても範囲が広く、音楽、合唱、そして果ては生け花、俳句というように協会でも45の団体が存在し活動している。そういう意味から考えると休日の部活動で子どもたちが興味を示す分野は、何かしらあるのだろうと思う。学校の中で例えば、どの部に入ろうかなと迷っている子どもたちにとっては、より細分化された分野があるので、これをやってみたいなと興味を示す分野も必ずあるだろうと思う。

逆に協会員も地域移行の話をする、子どもたちのエネルギーを頂きながら、前向きに考える団体もかなりあると思われる。芸術文化で音楽のように楽器が出来ないと成立しない分野があったり、逆に生け花とかは体験でもできる分野もある。興味を示した分野に体験参加してみて、この分野をやってみたいなという子もいると考えると、継続的な活動と体験的な活動というステージを設けてあげた方が、決められた中で活動するよりは、より自由度を持った考え方に立った方が良いのかなと思う。

義務教育の中で、部活動というのは強制なのか任意なのか、教育委員会なりできちんと決めてもらえれば、土日は子どもたちも困るから、地域の団体で何かやろうよといった方向に持っていけないのかなという感じがする。

今後の議論の中で一歩ずつ進んでいくと思いますが、基本的には選択肢が広がることに対しては賛成で、私自身が体験できなかったことや大人になって初めて体験して、もう遅かったということもあるので、芸術文化協会の協会員にしてみれば文化離れが進んでおり、高齢化が進み会員を増やせない状況がある中で、そういった意味からも子供たちにどんどん溶け込んでいただくことによって、各団体の活動の活発化にも結び付くのではないかなと感じる。

私自身、昨年からの会議に参加して、当初これは難しいだろうと思っていましたが、考え方を変えれば、すごく可能性のあることだということを感じている。

## 7 スポーツ少年団指導者協議会 会長 菊池 長悦 委員

地域移行可能なところから対応するという形を考えていた。私も各種目の具体的な指導者まではしっかりと把握しているわけではないが、遠野東中学校の校長先生がおっしゃったように、全体的に指導者の確保という部分から考えると、戸惑いや不安があるというところは理解できる。

スポーツ少年団、種目別団体の指導者においても、各種目にどれだけの技量、生徒への指導力のある指導者がいるのかということになると、はっきり自信を持って把握しているとは言いかねるところがあるのが事実である。

実際に移行するということになれば、きちんと指導できる指導者を把握することが必要となる。もう一つは、やっぱりそういったことを、きちんと調整するなり、相談窓口体制を整備していかないと、本当に真に子どもたちを育成できる環境が作れないのではないかと、今、委員の皆さんの話を聞いてそのとおりでなという思いがした。

ですから、調整役や相談窓口体制について、具体的に議論していかないと上手くいかないのではないかなという感じがした。

活動の多様性という面から言うと、例えば学校部活動では文化部で活動し、放課後は、地域のクラブ活動に入ってスポーツ活動をするといったような弾力的な仕組みづくりもでてくるのかなと思われる。

来年度については、部活動指導員を拡充するというような説明もありましたが、将来的には地域クラブ活動団体に移行した際に、指導者への報酬をどうするかという問題も出てくると思われる。

学校部活動では部活動指導員に報酬が支払われ、一方の地域クラブ活動では指導への報酬は支払われないというような、予算の使い方の公平公正なイメージが良く見えないものですから、そこら辺のバランスをどのようにこれから考えていけばいいのかというところは感じた。

## 8 岩手県教職員組合花北遠野支会 副支会長 石井 吉浩 委員

まず、組合労働者の立場から言わせていただくと、市教委の方でいろいろ考えていただいて、教職員の負担軽減というところに、メスを入れていただいて感謝している。

そこで、私が東中学校で顧問をしている男子バスケットボール部の現状をお話しさせていただく。男子バスケットボール部にも部活動指導員を配置していただいており、すごくありがたいと思っている。

現在の部活動指導員には、部活動指導員の制度が始まる前から外部指導員者として指導いただいておりますが、部活動指導員となると単独での指導や大会等への引率もできますし、報酬も支払われる。指導員の配置は教員の負担軽減、特に専門外の部活動を受け持つ教職員にとってはありがたい制度だなと感じている。

そういう意味も含めて現状についてお話すると、さっき合同チームの話が出ておりましたが、東中の野球部1・2年生は3人で新人戦には遠野中と合同チームにより参加しましたが、合同チームの場合、登録人数は両校合わせて20人を超えないことという条件がある。

例えば来年度野球部に新生6人が入部すれば人数は揃いますが、9人揃わなかった場合、遠野中と合同チームを組むにも登録人数の制限を超えてしまい合同チームを組めない可能性が生じる。

そういうことを含めて考えると、方向性としては生徒数の減少を理由に部活動が淘汰されるという部分には思うところがあって、是非この地域クラブへの移行は生徒数が減少していく中で、多様な自分のやりたいこと、スポーツでも文化でも取り組めるという意味では、最終的にはいろいろな形があるにしても地域で子どもを見るよ、そこに私たち教員も関われる部分では、関わっていくよという形がいいのかなと感じている。

現在、東中のバレーボール部なども専門の先生がいて、コーチがいなくても指導はできているのですが、転勤された後、誰が指導できるのかなと考えた時に地域の方の支えがあるというのは大事なことで、ありがたいことだなと思っている。

この地域移行の方向性については、組合としても教職員の立場としても大賛成というところがある。過渡期で難しいというところもあると思いますが、子どもたち、保護者が部活動等に求めるのは、好きな事ややりたいことができることだと思う。

生徒数が減少するから選択肢がどんどん狭まっていくという形であれば、あまり地域に移行する意味がないと思うので、そこは過渡期を経ながらもなんとか繋いで、少ない人数の地区の子どもたちも地域クラブ活動に参加することで、より良い指導を受けたり、大会に参加する機会を確保できたりすることになるので、この方向性にはすごく期待したいなと思っている。

この前、市役所に行った際に聞いた話であるが、今年度の出生数は100人を割るという話を伺った。3校の中学校合わせても80人とか90人しかいない時代が現実に来るのだなと思うと、3年後、今の小学校低学年の子供たちのことですが、さらにもっと下の世代のことまで考慮すると、やはりどうしても地域移行は必要だなと思っている。

私に関わりのあるサッカーとバスケットボールの話をさせていただくと、サッカーは市の協会の体制が整っており、指導者については極端な話、報酬無しでも指導してくれる指導者が見つかるかもしれません。まして協会で支えるという体制もあるので上手く移行していけるのかなと思われる。

一方、バスケットボールに関しては、結構やっている子供たちがいて、それぞれの学校が単独でやっても成り立つのですが、子どもが減っていき地域移行といった際に、バスケットボールは現在、市内に協会が無く、経験者OBの30代、40代の世代の方々が善意で各チームについてみて下さっている状況である。

審判の資格とかコーチのライセンスも自費で取っていただいているような現状があり、バスケットボールが地域移行だといっても、市内では組織化されている団体がない状況の中で、どこが受け皿を担うのかという問題がでてくるのが想定され、種目による格差は大きなところである。

遠野の子たちはサッカーやバスケットボールをやっている子どもたちが多いため、将来的にも地域移行が上手く成立してほしいと思う。

遠野市としてある程度、成熟して民活方式でという種目と、子どもたちのためには、行政がもう少し関わり続けなければならない種目もあると思うので、そういう意味では種目による差は地域でも行政でも受け止めて、子どもたちがやりたいことを出来る状態をより長く残していただきたいと思う所がある。

一輪車とか空手の種目については、学校と切り離されていて地域の指導者の方々が責任を持って午後7時から午後9時までの活動をしている。それは、そのままが良いのではないかなと個人的に思っておりますが、現在行っている学校部活動の種目の活動時間が毎日、午後7時から午後9時までに馴染むかという、そうではないような感じもするので、午後5時から午後7時頃までが現実的だと思う。

教員も午後5時から午後6時までの前半の部分はある程度、関わって、地域の方は仕事が終わったからの後半の午後7時までの部分を指導していただくというのが現実的かなと思う。

個人的には、いろいろな場所を拠点として活動する際にスクールバスも1周巡回して、いろいろな場所に移動できる体制があったら理想かなと思っている。ただ、運転手の勤務インターバル問題もあるので、いろいろな部署と関わって検討していく必要があると思っている。

私たちがこの話が進んでいくことに凄く期待しており、教員が関われる部分は積極的に関わっていきたいと思っているので、引き続きご検討をお願いするところである。

## 1 遠野市PTA連合会 代表 馬場 貴之 委員

他の委員の皆さんや各中学校の現場の声を聞いて、すごくためになった。

私は、部活動地域移行の話を知りたり勉強したりしてきましたが、地域ごとに課題があって、これだという正解はないと思う。資料のとおり令和7年度からきっちり地域移行はいかないと思いますし、受け皿団体もレベルの差があるので、まずは出来そうなところから、令和6年度からでも進めてもいいのかなと思っているところである。

先ほど、話が出ましたが、中学校区だけではなく市全体の人数が減少しているので、遠野市全体としての部活動の在り方を考えていく必要があると思っている。

確かに遠野中サッカー部は人数が多いのですが、だからいいではなくて、西中にいても東中にいてもサッカーができるとか、陸上競技をやりたいと言った時に、遠野中しか陸上部がないよといったことでは無くて、学校に関係なく自分がやりたいスポーツをできるという環境を作ることが部活動の地域移行だと思う。必ずしも受け皿があるだけでは無くて、学校単位で上手く連携してやれる仕組みを考えていければいいのかなと思っている。

私は陸上協会にも携わっているのですが、今回、地域移行によって指導者が育成出来たり、指導に関わったりすることが、団体自体の育成のきっかけにもなると思っている。そこも上手く学校と連携しながら、芸術文化も含めたスポーツ団体も発展していけるきっかけになればいいなと思っている。

中体連の登録っていうところもあります。必ずしも大会に出るだけが地域移行の受け皿ではないと思うので、本当にeスポーツも含め、ちょっと体験でやる程度の活動もあっていいと思う。

大会出場を目指すアスリートの子どものもいれば、体を動かさず程度でピアノもやりたいと思う子もいると思うので、必ずしもこのスポーツと限らず、月曜日はピアノやりますとか、水木曜日はスポーツやりますとか、つまみ食いもできるような選択肢があってもいいのかなと思っている。

きっちりということではなくて、この程度なら出来るよという団体でもいいのかなと、ただ、子どもたちをちゃんと育成できる仕組みだけは整備して上手くやっていけないかなと思う。

私自身としては、令和6年度からできるところからモデル的に試行して、いろいろな課題が出てきたら、それに対応するというのも一つのやり方かなと思っている。

## 11 遠野市教育委員会学校教育課 学校教育課長 齋藤 真 委員

今、お答えできる部分として新田光志委員からお話のありました部活動の所属について、現在の部活動は強制加入ではなく任意加入となっている。子どもたちは、部活動に所属しなくても良いという状況で岩手県も他の都道府県と同じ状況となっている。

様々、今、委員の皆様からお話がありました部分で結局、何が難しいかのかを考えたときに、学校による部活動と、あとは地域で同じ地域クラブがあっても共存が難しいということだと思う。

どっちに所属するかというのを子供たちが選んだり、学校の方で選択させるっていうことは、かなり厳しいのではないかなと思われる。

学校で無いものが地域にあるから、そちらに参加するとか、学校では休部にせざるを得ないから、そちらの方に参加していくというのが、地域移行の一つなのかなと考えるところもあるので、やはり、自分の学校ではできないものを地域クラブで実施できるという方向で進めていくのが一つの方策かなと思う。

そこに向けての地域移行の期間が令和6年の期間なのかなと思っている。

私も学校の教員なので、自分のこととして考えたときに部活動指導員の方が指導に入っていて、先生方が土日は完全に指導を任せていいのかということ、石井先生おっしゃられた通り、先生方が指導に行かないってことは無いと思う。

理由は、土日は子供たちが大会で活躍する機会になる。平日、部活をやって、平日指導して土日だけお任せするっていうと、平日せっかく積み重ねたものを子供たちが活躍する場に教員がいなくて、指導員の方に任せるのは、子どもたちの育成の部分考えたときに、本当にそれが働き方改革というところになるのかなとなったときに、先生方が全員賛同されるのかなと思われる。

休日は大会が多く、各種主催団体があるものだけじゃなく、練習試合もたくさんある。

練習試合の調整を部活動指導員がやるのかとなれば、そうではなく学校教員がやるので、学校と地域クラブとやり取りするときの窓口になるのは、教員だったりするときに、もしかしたらその橋渡しの期間の地域クラブの指導員の方が、例えば学校と他の学校とのやり取りのところも引き継ぎながら、令和7年度以降の地域移行の具体的なところに結びついていけば、ある程度、引き継ぎ期間となり、この令和6年度の活動指導員が入っていただく意味っていうのも出てくるのではないかなと思う。

先ほど、馬場さんがおっしゃった通り、地域移行の話が出てきた原点というのが、子どもたちのためのところで本来、話が出てきていけば、色々な動きがあったと思いますが、地域移行の話が出た原点を思い返してみると、先生の働き方改革であった。

働き方改革をしていくときに、先生方は土日も部活動の指導にあたっていますが、それではどうですかというような話があるときに、大人の働き方改革のところが起点になってるから、なにか色々なことがずれてるんじゃないかなってというようなことで、本当にこれが有意義で、進めていったときに、双方にメリットがあるならば、国ははしごを外さなかったと思う。

やはりそこで地域の実情に応じて進めるというような話があるので、実態に応じてとか、指導者の方々や子供たちの数というような、地域の実態に応じてそれぞれでやってくださいねってというような状況にしないと進めれなかったから、今こういう模索状態に陥っているんじゃないかなと今進めているところで考えているところである。

皆さんから、今日お話いただいたような地域移行に関わって様々模索して、いろいろな意見をいただきながら、遠野市にあった地域移行というのが、これからこの数年の令和6年、令和7年のところで、ある程度モデルのようなものが出てきたりしながら、一つずつ形になってきて、進んでいけばいいなと皆さんの話し伺って考えていたところである。

## 9 遠野市教育委員会事務局 教育長 佐々木 一人 委員

いずれ、遠野の子どもたちの数は確実に減っていくのは事実である。本日、岩教組主催のうたごえ発表会に参加しましたが、スポーツ面だけではなく文化的な面も子どもにとっては、大切な成長の糧だと思うので、そういう部分も残してあげたいなとも思っている。

子どもたちのことを考えて、部活動の地域移行が良い方向に出来ればいいなとも思っているところである。

部活動検討委員会を開催するたびに新たな課題が出てきて、検討だけで、先が見えない状況であるが、委員の皆さんで議論しながら明るい方向性を目指していきたいなとも考えている。

本日いただいたご意見を事務局でも充分取りまとめて、次回の検討委員会にお示しできればなとも思っている。